

平成30年(2018年)

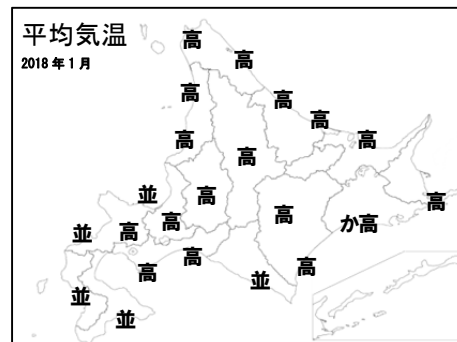
札幌管区气象台 気象防災部  
地球環境・海洋課  
(2018年2月1日)

# 北海道地方 1月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比			降雪の 深さ合計 cm	月最深 積雪 cm
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %		
稚内	-3.6	122.0	26.6	+1.1	145	58	171	80
北見枝幸	-4.6	120.5	45.6	+1.3	144	58	195	124
羽幌	-3.1	159.5	22.1	+1.6	139	39	201	110
雄武	-5.0	60.0	80.1	+1.4	132	83	117	57
留萌	-3.0	101.5	28.3	+1.4	102	55	160	114
旭川	-5.8	76.0	67.4	+1.7	109	91	114	74
網走	-4.1	41.5	120.8	+1.4	76	106	80	51
小樽	-2.6	162.5	64.0	+0.7	114	97	182	110
札幌	-2.6	99.5	88.4	+1.0	88	96	147	66
岩見沢	-4.0	90.5	89.1	+1.5	81	94	159	106
帯広	-6.3	30.5	189.7	+1.2	71	103	47	54
釧路	-3.2	13.0	176.2	+2.2	30	97	19	6
根室	-2.5	16.0	158.7	+1.2	45	104	29	10
寿都	-2.3	197.5	8.5	+0.1	176	29	210	105
室蘭	-1.2	78.5	57.3	+0.8	143	64	48	15
苫小牧	-2.7	82.0	124.3	+1.1	205	88	63	42
浦河	-1.7	32.5	112.0	+0.8	88	80	36	3
江差	-0.6	146.5	21.2	+0.2	171	65	119	44
函館	-1.8	127.0	95.0	+0.8	165	92	131	57
倶知安	-4.8	190.5	36.3	+0.9	101	73	259	184
紋別	-4.3	49.0	82.1	+1.3	108	80	116	47
広尾	-3.4	101.0	152.8	+1.1	132	96	120	63

## 階級分布図



注「 ) 」付きの値は欠測を含む。「 ] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間・降雪量は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級	降雪量	階級
北海道22地点平均	+1.1	高	117	多	79	か少	90	少
日本海側10地点平均	+1.0	高	123	か多	70	か少	92	少
ホーツク海側4地点平均	+1.4	高	115	多	82	少	95	並
太平洋側8地点平均	+1.2	高	110	並	91	か少	86	少

## 月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

月平均気温の高い方から 第3位 釧路  
月間日照時間(少ない) 第2位 寿都  
降雪の深さ月合計値(多い) 第3位 寿都

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。

各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『高温・多雨（少雪）・寡照』 暖気流れ込み上旬は歴代1位の高温 —

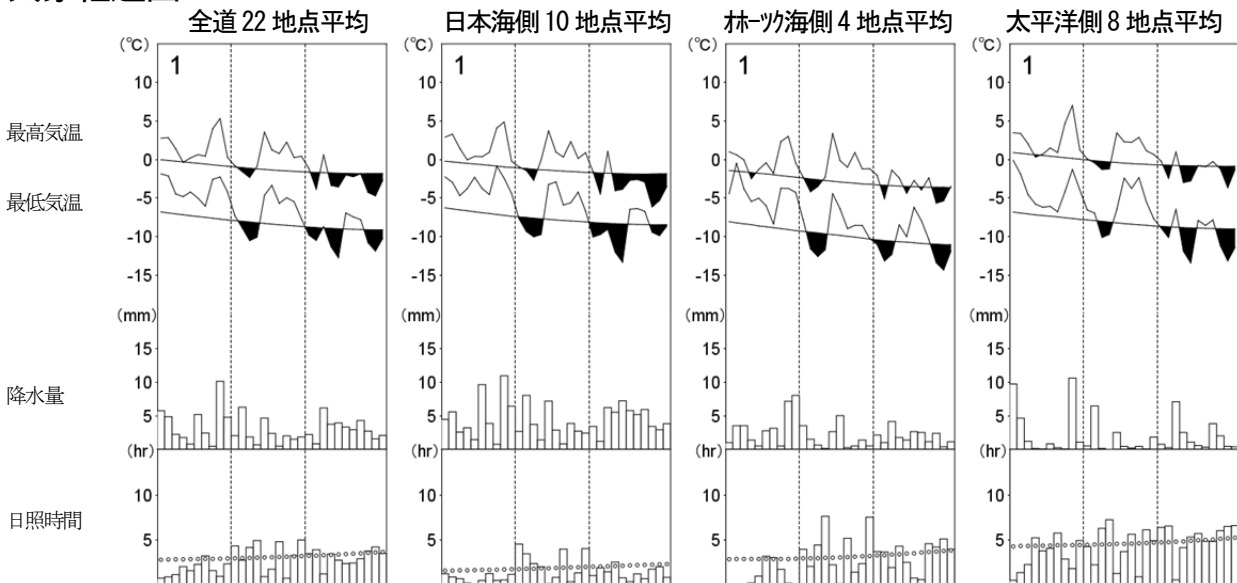
この期間の天気は、上旬と下旬は冬型の気圧配置や低気圧の影響で雪や雨の降った日が多く、急速に発達する低気圧の通過やその後の強い冬型の気圧配置により大荒れの天気となった日もあった。中旬の天気は短い周期で変わり、12日は低気圧の影響により渡島半島で記録的な大雪となった所があった。気温は上旬は平年よりかなり高く、中旬も高かったが、下旬は低く、月平均気温は高かった。降水量は上旬と下旬は平年より多く、月降水量も多かった。日照時間は上旬と下旬は平年よりかなり少なかったが、中旬は多く、月間日照時間はかなり少なかった。降雪量は上旬と中旬は平年より少なかったが、下旬は多く、月降雪量は少なかった。なお、1961年の統計開始以降、上旬の気温は日本海側と太平洋側及び北海道地方としても最も高く、上旬の日照時間は北海道地方としても最も少なかった。

上旬:1~2日は低気圧の影響で全道的に雪や雨が降った。日降水量は1日に白老町森野で56.0mm、日降雪量は1日に広尾で40cmなど。3日は低気圧の影響とその後の冬型の気圧配置により広い範囲で雪が降った。4日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側で雪の降った所があったが、太平洋側では晴れた所が多かった。5~6日は気圧の谷の影響により日本海側やオホーツク海側で雪が降ったが、太平洋側東部では晴れた。7日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側で雪が降ったが、太平洋側東部では晴れた。8日は気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、太平洋側東部では概ね晴れた。9~10日は急速に発達する低気圧の通過やその後の強い冬型の気圧配置により、全道的に雪や雨が降って大荒れの天気となった所もあった。

中旬:11日は低気圧の影響により日本海側や太平洋側で雪の降った所があったが、晴れた所も多かった。12日は低気圧が通過して日本海側南部や太平洋側で雪の降った所が多く、渡島半島で記録的な大雪となった所があったが、日本海側北部などでは晴れた。日降雪量は厚沢部町鶉で50cmなど。13日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側北部で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた。14日は高気圧に覆われてオホーツク海側や太平洋側で晴れたが、日本海側では気圧の谷の影響で雪の降った所があった。15日は前線が通過して広い範囲で雪や雨が降った。16日は気圧の谷の影響で雪の降った所が多かったが、太平洋側東部では晴れた。17日は気圧の谷の影響で雪の降った所があったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かった。18日は気圧の谷の影響で日本海側や太平洋側西部で雪や雨が降った。19日は冬型の気圧配置となって日本海側やオホーツク海側で雪が降った他は概ね晴れた。20日ははじめ高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れたが、低気圧の通過に伴い広い範囲で雪が降った。

下旬:21~22日は冬型の気圧配置となって日本海側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側東部では晴れた。23日は急速に発達した低気圧の影響により広い範囲で雪が降り、大荒れの天気となった所もあった。24日は発達した低気圧の影響により日本海側や太平洋側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側を中心に晴れた。25~27日は冬型の気圧配置が続き日本海側を中心に雪が降ったが、太平洋側では晴れた所もあった。日降雪量は26日に夕張市鹿の谷で43cmなど。28日は冬型の気圧配置や前線を伴った低気圧の影響により日本海側や太平洋側西部で雪が降った他は概ね晴れた。29日は前線を伴った低気圧の通過とその後の冬型の気圧配置により広い範囲で雪が降ったが、次第に晴れた所もあった。30日は冬型の気圧配置となって日本海側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側や太平洋側では概ね晴れた。31日は気圧の谷や低気圧の影響により日本海側で雪の降った所が多かったが、オホーツク海側南部や太平洋側では晴れた所が多かった。

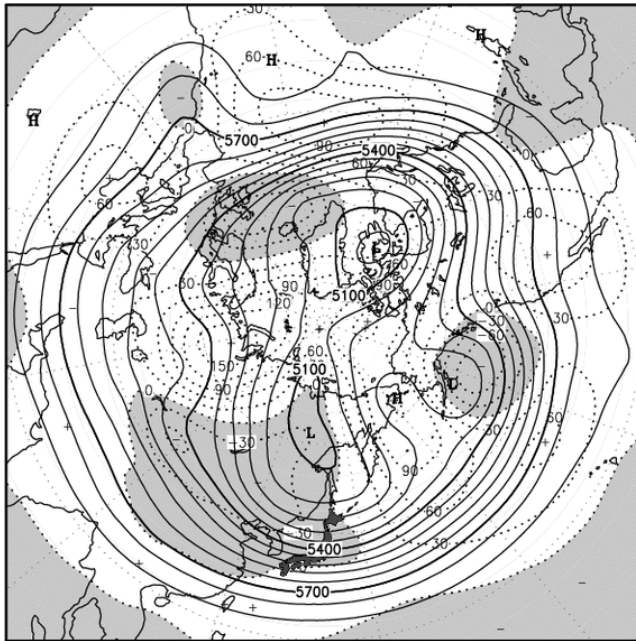
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(°C)、降水量と日照時間は平年比(%))を示す

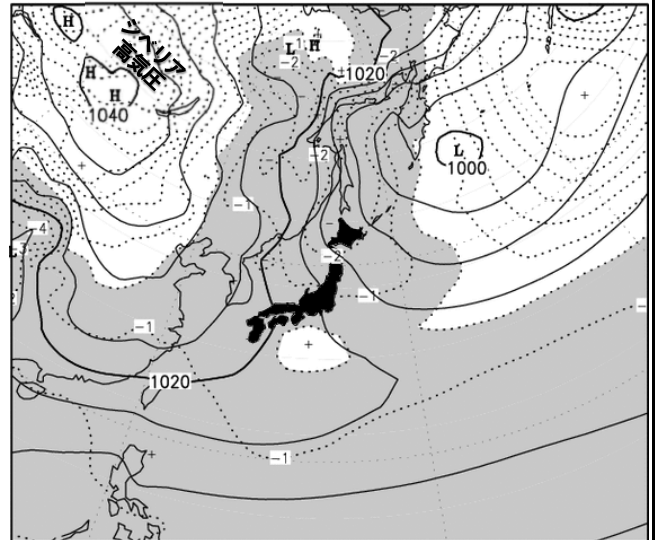
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	+2.8 高	+1.6 高	-0.8 低	+2.9 高	+1.6 高	-1.2 低	+2.8 高	+1.5 高	0.0 並	+2.6 高	+1.8 高	-0.7 低
降水	136 多	94 並	119 多	125 多	110 並	133 多	162 多	88 並	110 並	135 多	76 並	106 多
日照	53 少	108 多	76 少	44 少	116 多	51 少	34 少	121 多	86 少	75 少	92 少	102 並

## 1月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



1月の500hPa天気図

実線：等高度線（m）、点線：高度の年平均偏差（m）  
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。  
 日本の上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



1月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の年平均偏差（hPa）  
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

### ・500hPa（上空約5500m）天気図

ユーラシア大陸北部では偏西風の蛇行が大きく、北海道付近の上空に強い暖気が入る時期もあったが、強い寒気の入る時期もあった。

### ・地上天気図

中央シベリアでは平年より気圧が高く、シベリア高気圧は中心付近で強かったが、大陸東岸から日本付近にかけては平年より気圧が低かった。このため、北海道付近では冬型の気圧配置となる日が少なく、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。また、低気圧が北海道西岸で停滞することが多かったため、南から暖かい空気が入りやすかった。

## 北海道上空の気温経過

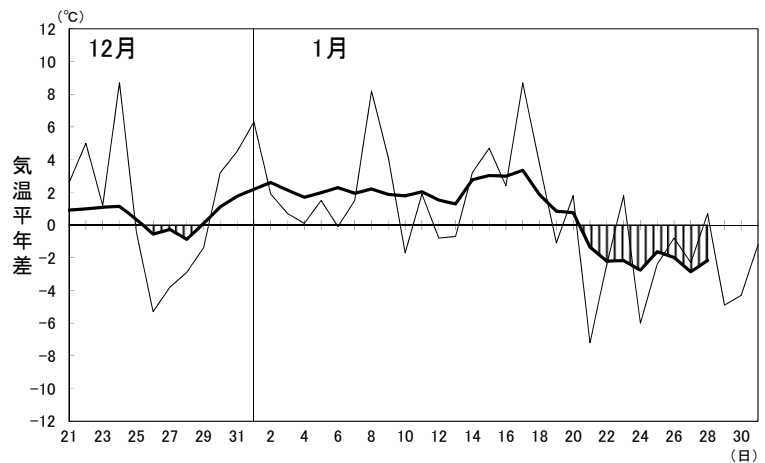
### 1月の札幌における850hPaの気温平年差

#### ・7日移動平均（太線）

上旬から中旬は平年を上回り、下旬は下回った。

#### ・日別値（細線）

上旬から中旬は平年を上回る日が多く、大きく上回る日もあった。下旬は平年を下回る日が多く、大きく下回る日もあった。



12月下旬から1月の札幌における850hPa（上空約1500m）気温平年差  
 （細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差）

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
1月	月平均気温の高い方から	第3位	釧路	-3.2 ℃	+2.2 ℃	-2.1 (2009)	1910
	月間日照時間 (少ない)	第2位	寿都	8.5 h	29 %	7.8 (1926)	1901
	降雪の深さ月合計値 (多い)	第3位	寿都	210 cm	124 %	219 (1977)	1953

お問い合わせ先

札幌管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課  
TEL (011) 611-6174